

# 近代港湾工学の父 廣井勇博士の功績

- 「函館港改良工事」は近代港湾工学の父・廣井勇博士の調査・設計・監督に基づき実施されました。
- 「函館港改良工事」着工の1年後、廣井博士は初代小樽築港事務所長に任命され、我が国最初の本格的な外洋防波堤となる北防波堤の建設等、小樽築港工事の指揮を執りました。
- また、廣井博士により導かれた、防波堤にかかる波の圧力を算定する「廣井公式」は、昭和50年代まで防波堤設計に用いられる等、我が国の港湾建設技術において数々の大きな実績を残しました。

## 廣井勇博士の略歴



文久 2年(1862)	土佐国高岡郡佐川村に生まれる
明治 7年(1874)	東京外国語学校に入学
明治10年(1877)	札幌農学校に入学
明治14年(1881)	札幌農学校卒業、北海道開拓使へ任用される
明治15年(1882)	工部省へ異動となる
明治16年(1883)	米国に渡る
明治20年(1887)	札幌農学校助教授となる (ドイツに渡る)
明治22年(1889)	帰国、札幌農学校教授となる
明治23年(1890)	北海道庁技師を兼務 <small>本道港湾の調査を命じられ、函館港をまず第一の箇所として、地形や深淺測量を実施</small>
明治29年(1896)	函館港改良工事監督を命ぜられる
明治30年(1897)	小樽築港事務所長となる
明治31年(1898)	築港(前後編)を出版
明治32年(1899)	東京帝国大学教授となる
明治41年(1908)	北海道庁顧問となる
大正 8年(1919)	土木学会会長に就任
昭和 3年(1928)	永眠(67才)